

大会日程

第1日 10月9日(日)	第2日 10月10日(月・祝)
9:30 受付 経済学研究科棟コミュニティ・ラウンジ(1階)	9:00 受付 経済学研究科棟コミュニティ・ラウンジ(1階)
10:00~12:30 一般研究発表 経済学研究科棟 第1教室(地階) 第2・3教室(3階)	9:30~12:00 一般研究発表 経済学研究科棟 第1教室(地階) 第2・3教室(3階)
12:30~13:30 昼食・休憩 全国編集委員会 医学部1号館 S309(3階) 研究討議打ち合わせ 経済学研究科棟204演習室(2階)	12:00~13:00 昼食・休憩 課題研究打ち合わせ 経済学研究科棟204演習室(2階)
13:30~16:30 研究討議 経済学研究科棟 第1教室(地階)	13:00~15:45 課題研究 経済学研究科棟 第1教室(地階)
16:40~17:40 総会 経済学研究科棟 第1教室(地階)	16:00~18:00 ラウンドテーブル 経済学研究科棟 第1~4教室(地階・3階) 医学部1号館 S309(3階)
18:00~19:30 懇親会 第二食堂	

大会前日

10月8日(土)

16:30~18:30	全国理事会(医学部1号館 3階 S309)
-------------	-----------------------

参加要領

※非会員の方もご参加いただけます

- 受付 経済学研究科棟コミュニティ・ラウンジ
- 大会参加費(会員・非会員同額)3,000円(学生2,000円)懇親会費 3,000円(学生1,500円)
- 一般研究発表 発表20分/質疑応答5分
- ※ 万一発表を取りやめる場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。
- なお、欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。大会アドレス: kyotetsu2016@gmail.com

- ※ 食堂や近隣のコンビニなどの情報は本冊子13頁をご覧ください。なお、教室内での飲食は不可となっております。飲食の際は経済学研究科棟1階コミュニティ・ラウンジをご利用ください。
- ※ 会員控室は設けておりません。ご休憩は経済学研究科棟1階コミュニティ・ラウンジをご利用ください。
- ※ 授乳室を用意しております。ご利用を希望される方は経済学研究科棟1階受付までお越しください。
- ※ 学内へのお車での入構はできません。公共交通機関でおいでください。
- ※ 特別なサポート・支援が必要な方は大会アドレスまでその旨をご連絡ください。
- ※ 大会会場最寄りの入構口は赤門です。ご来場の際は赤門のご利用をおすすめいたします。

第1部会：現代思想と教育（経済学研究科棟 第1教室）

司会：松下良平（武庫川女子大学）・小野文生（同志社大学）

- 10：00 未来志向的責任論の教育学的意義
—I. ヤングの未来志向的責任概念を H. アレントの集団責任概念と対峙して—
大中のぞみ（広島大学大学院・院生）
- 10：25 ノルムと逸脱 —G. カンギレムと M. フーコーの思想を導きとして—
船原将太（九州大学大学院・院生）
- 10：50 学校共同体の再検討 —ナンシーの共同体論を通じて—
木下 慎（東京大学大学院・院生）
- 11：15 フッサールの現象学的還元がもつ「教育的なもの」
島田喜行（同志社大学）
- 11：40 N. ルーマン道徳論に関する一考察
鈴木 篤（大分大学）
- 12：05 全体討議（～12：30）

第2部会：ドイツの教育思想（経済学研究科棟 第2教室）

司会：池田全之（お茶の水女子大学）・大関達也（兵庫教育大学）

- 10：00 フリードリヒ・シラーのビュルガー批評から読み解く人間形成構想
鈴木 優（慶應義塾大学大学院・院生）
- 10：25 カントの格率概念と道徳的内実
小林大介（東京大学大学院・院生）
- 10：50 G. ブックによるカントの受容と批判
森 祐亮（慶應義塾大学大学院・院生）
- 11：15 カントにおける「共同体」と「道徳性」
土屋 創（東京大学大学院・院生）
- 11：40 フンボルトにおける陶冶論としての比較人間学の成立
—思想史的アプローチ—
伊藤敦広（作新学院大学女子短期大学部）
- 12：05 全体討議（～12：30）

第3部会：教育実践の哲学（経済学研究科棟 第3教室）

司会：毛利 猛（香川大学）・鳶野克己（立命館大学）

- 10：00 臨床教育学的省察への臨床教育学的省察
～ある一つの事例をめぐる10年に渡るリライトの試み～
小林宣洋（西東京市立ひばりが丘中学校）
- 10：25 特別支援教育における言語的教養教育の意義
村上美奈子（立正大学）
- 10：50 体罰に関する現象学的考察
—『存在と無』及び『情緒論粗描』におけるサルトルの思索を手がかりとして—
加藤誠之（高知大学）
- 11：15 遊びにおける子どもたちの時間 —絵本・玩具と大人を巡って—
久保田健一郎（大阪国際大学短期大学部）
- 11：40 子どもの哲学（p4c）ハワイにおける「場」の理論と実践
——コミュニティでの「活動と言論」の条件——
田端健人（宮城教育大学）
- 12：05 全体討議（～12：30）

- 12：30～13：30 昼食・休憩
全国編集委員会（医学部1号館 3階 S309）
研究討議打ち合わせ（経済学研究科棟 204演習室）

- 13：30～16：30 研究討議（開催校企画）（経済学研究科棟 第1教室）

市民社会と教育

—公共性、自己利益（self-interest）、民主主義

報告者：奥野佐矢子（神戸女学院大学）・藤井佳世（横浜国立大学）・苅部 直（東京大学）

司会：小玉重夫（東京大学）・平井悠介（鎌倉女子大学）

- 16：40～17：40 総 会（経済学研究科棟 第1教室）

- 18：00～19：30 懇 親 会（第二食堂）

第1部会：アメリカの教育思想（経済学研究科棟 第1教室）

司会：松浦良充（慶應義塾大学）・齋藤直子（京都大学）

- 9:30 エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味
都田修兵（広島大学大学院・院生）
- 9:55 J. デューイの初期心理学と後期宗教論の関係
梶川 萌（東京大学大学院・院生）
- 10:20 デューイにおける民主主義の「経験」の意義
阿部康平（同志社大学大学院・院生）
- 10:45 J. デューイの「美的経験」における教育的含意とその政治性
西本健吾（東京大学大学院・院生）
- 11:10 ブルーナー言語獲得研究の教育哲学的含意
相馬宗胤（広島大学大学院・院生）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第2部会：フランスの教育思想（経済学研究科棟 第2教室）

司会：綾井桜子（十文字学園女子大学）・上原秀一（宇都宮大学）

- 9:30 ドゥルーズ哲学における「問題」概念とその教育的意義
松枝拓生（京都大学大学院・院生）
- 9:55 発達概念批判から事例の哲学へ
—ドゥルーズ哲学における反ヘーゲル主義の教育哲学的意義—
稲田祐貴（東京大学大学院・院生）
- 10:20 身体行為が開く教育の意味
—リクール身体論の具体的理解—
朝岡 翔（京都大学大学院・院生）
- 10:45 デカルトの方法序説にみる自己の生成と形成に関する思想の端緒について
土屋靖明（元滋賀短期大学）
- 11:10 ビュフォン『博物誌』とJ. J. ルソー
小笠原喜康（日本大学）
- 11:35 全体討議（～12:00）

第3部会：人間・メディア・教育 (経済学研究科棟 第3教室)

司会：高橋 勝 (帝京大学)・西村拓生 (奈良女子大学)

- 9:30 人間存在の精神的世界を支えるものについて
—神谷美恵子の「苦悩」に対する考察—
高倉美帆 (京都大学大学院・院生)
- 9:55 戦後日本思想における「主体性」とプラグマティズム
高田正哉 (東京大学大学院・院生)
- 10:20 木村素衛の教育学における「媒介的創造性」
—「異文化」交流の一つのかたち
門前斐紀 (大阪成蹊大学・天理大学)
- 10:45 F. ローゼンツヴァイクの翻訳論
——自言語中心主義への批判——
田中直美 (東京家政大学)
- 11:10 Q・O・R (Quality of Relationship) の教育
—人間関係の質に関する考察と教育—
酒井ツギ子 (徳島文理大学)
- 11:35 全体討議 (～12:00)

12:00～13:00 昼食・休憩
課題研究打ち合わせ (経済学研究科棟 204演習室)

13:00～15:45 課題研究（学会理事会企画）

（経済学研究科棟 第1教室）

哲学生成の現場としての教育実践

——教育哲学のフロンティア（3）——

提案者：大塚類（青山学院大学）・竹内伸一（徳島文理大学）・前川幸子（甲南女子大学）

司会者：生田久美子（田園調布学園大学）・丸山恭司（広島大学）

16:00～18:00 ラウンドテーブル

（1）戦後教育学を哲学する

（経済学研究科棟 第1教室）

企画者：森田伸子（日本女子大学）・渡辺哲男（立教大学）

（2）いま、なぜ「子どもの哲学」か —哲学的思考の刷新に向けて—

（経済学研究科棟 第2教室）

企画者：小玉重夫（東京大学）・神戸和佳子（東京大学・院生）

（3）教育空間におけるモノとメディア—現代美術の経験を手がかりとして

（経済学研究科棟 第3教室）

企画者：今井康雄（日本女子大学）

（4）例示／例外の政治学

（経済学研究科棟 第4教室）

企画者：岡部美香（大阪大学）・北詰裕子（東京学芸大学）

高橋 舞（帝京平成大学）・室井麗子（岩手大学）

（5）プラグマティズムは「教育」をどう問いなおしてきたか？

—現代プラグマティズムが切り拓く問いの地平を踏まえながら—

（医学部1号館 S309）

企画者：松下晴彦（名古屋大学）・生澤繁樹（名古屋大学）

【第1日目】13:30~16:30

経済学研究科棟 第1教室

市民社会と教育 —公共性、自己利益 (self-interest)、民主主義

報告者：奥野佐矢子 (神戸女学院大学)

藤井佳世 (横浜国立大学)

荻部 直 (東京大学)

司 会：小玉重夫 (東京大学)

平井悠介 (鎌倉女子大学)

いかに市民を育成するののかということは近代教育の本質に関わる課題でありつづけてきた。しかし、今日教育学は、こうした課題への重要な問い直しの時期をむかえているように思われる。選挙権年齢引き下げや、それに伴う新科目「公共」の設置に向けた昨今の動向は、学校が子どもを政治的市民へと準備する場であるばかりではなく、政治的市民が存在する場となっていくことを意味している。すなわち、教育は子どもが市民となることだけでなく、子どもが市民であるということをも引き受けなければならないのである。

教育哲学者のガート・ビースタによれば、そもそも子どもは教育を通じて政治的存在へと準備されるものではなく、つねにすでに政治的存在であるという。こうした見方から、ビースタはデモクラシーに向けた教育ではなく、デモクラシーとしての学習を提唱している。しかしながら、すべての者がつねにすでに政治的存在であるとしても、ある政治体において「市民」と「非市民」を隔てている境界が消去されるわけではないだろう。実際には「市民」は理想的な政治的空間に存在するのではなく、国家や市場、社会、家族等さまざまな場に置かれ、それぞれの原理が複雑に絡み合うところで構成されるものであろう。したがって、子どもが「市民」となることと、子どもが「市民」であることに教育はいかに関わるのかという課題は、国家、市場、社会、家族といった多様な視点から関わられなければならないのである。本シンポジウムでは、「市民」とは誰であり、「市民」となること／であることと教育はいかに関わるのかを問うことを通じて、「市民社会」において教育と政治が取り持つ多様な関係を浮き彫りにしていきたい。

【第2日目】13:00～15:45

経済学研究科棟 第1教室

哲学生成の現場としての教育実践
——教育哲学のフロンティア(3)——

提案者：大塚 類 （青山学院大学）

竹内伸一 （徳島文理大学）

前川幸子 （甲南女子大学）

司 会：生田久美子（田園調布学園大学）

丸山恭司 （広島大学）

今期理事会企画の課題研究は、「教育哲学のフロンティア」を包括的なテーマに掲げて企画を組んできた。第一回は「思想と現場をつなぐ」（第57回大会）、第二回の昨年は「教育哲学の『現場』としての高等教育」（第58回大会）をテーマに掲げて、教育哲学の対象領域の拡大を試みてきた。締めくくりとなる今回は、この「現場」という認識を生み出す教育実践そのものを対象として教育哲学のさらなるフロンティアへと考察を進めたい。

ここで教育実践は、哲学的な考察の単なる適用対象とは見なされていない。哲学的な考察が紡ぎ出される、文字通りの「現場」と捉えられている。こうした哲学と教育実践との根源的な関係は、すでに哲学的考察のそもそもの出発点において見いだされてきた。ソクラテスにおいては、〈教えるとはどういうことか〉という問いと〈知とは何か〉という問いが不可分の形で問われていた。哲学的問いと教育的問いとの同様の不可分の関係はニーチェやデューイやウィトゲンシュタインにも見られることだろう。

この課題研究では、先達の哲学に学びながらも、われわれ自身の教育実践に哲学生成の現場を見いだし、その省察を課題の中心としたい。教育哲学のフロンティアは今日に生きるわれわれ自身の実践によってこそ開拓されるはずのものだからである。それぞれの教育実践からどのように哲学が立ち現れ、紡ぎ出されているのか。そして、そのように立ち現れた哲学はどのように教育を問い始めるのか。まずは登壇者自らの教育実践と哲学との原初的關係から省察を始め、今日のわれわれが教育実践からいかなる哲学を汲み上げることができるのかについて、ともに議論したい。

〔ラウンドテーブル1〕

【第2日目】16:00～18:00

経済学研究科棟 第1教室

戦後教育学を哲学する

企画者：森田伸子（日本女子大学名誉教授）・渡辺哲男（立教大学）

司会者：森田尚人（元中央大学）

提案者：山田真由美（慶應義塾大学・院生）・小谷由美（立教大学等非常勤）

桑嶋晋平（東京大学・院生）・藤原 敬（立教大学・院生）

日本における「戦後教育学」は第二次大戦後の冷戦構図の中で形成され、左派の教育運動によって担われてきた。冷戦終結後の今日、その歴史的相対化の作業が進んできた一方で、そこで語られた教育理念そのものについての哲学的考察を深める作業は、いまだ不十分なままである。ここではその試みの一つとして、戦後教育学に多様な立場からコミットした4人の人物の教育思想をその中核をなすと思われる教育理念に光を当てて考察する。すなわち、高坂正顕における「歴史的主体の形成」、田中耕太郎における「人格の完成」、勝田守一における「教育的価値」、宗像誠也における「教育の自由」である。思想的な立脚点、戦前・戦後の連続非連続性、教育運動との関わりにおいて、それぞれに異なる立場にあるこれらの人物の教育理念を、内在的に分析し、それらを互いに交差させてみるところから、戦後教育学とは何であったのか、我々にとって何であるのかを考える一步としたい。

〔ラウンドテーブル2〕

【第2日目】16:00～18:00

経済学研究科棟 第2教室

いま、なぜ「子どもの哲学」か
——哲学的思考の刷新へ向けて——

企画者・司会者：小玉重夫（東京大学）・神戸和佳子（東京大学・院生）

提案者：河野哲也（立教大学）・岡田泰孝（お茶の水女子大学附属小学校）

神谷 潤（お茶の水女子大学附属小学校）・小野文生（同志社大学）

本ラウンドテーブルは、「子どもの哲学」に関する理論と実践の現状を報告し合い、そこから、哲学的思考刷新への道を模索する試みである。まず、「子どもの哲学」に関して活発な問題提起を行っている河野哲也氏が、「子どもの哲学」に関する理論と実践の現状およびその意義を報告し、問題提起をする。次に、文科省の研究開発指定を受けて新教科「てつがく」科を設置し、哲学教育のカリキュラム開発と「“てつがくすること”を始めた子どもと教師」の実践を進めているお茶の水女子大学

附属小学校の実践を、岡田泰孝氏と神谷潤氏が報告する。最後に、これまで哲学教育に関するフォーラムやシンポジウムを精力的に展開してきた小野文生氏が、哲学教育と教育哲学の間に立つわれわれに今問われていることは何なのか、その意味を、問題提起する。以上の報告を受けて、「子どもの哲学」が意味することについて意見を交換し議論する。その際特に、ソクラテスらによってアゴラの市民的知として創始された哲学がプラトンのアカデメイア以降、学校知として制度化されてきた歴史的経緯を再審に付し、哲学的思考の刷新を模索する場としていきたい。

〔ラウンドテーブル3〕

【第2日目】16:00～18:00

経済学研究科棟 第3教室

教育空間におけるモノとメディア —現代美術の経験を手がかりとして

企画者 : 今井康雄 (日本女子大学)
司会者 : 池田全之 (お茶の水女子大学)
提案者 : 今井康雄・眞壁宏幹 (慶応義塾大学)・小松佳代子 (東京藝術大学)
指定討論者: 郷 泰典 (東京都現代美術館)・堀江美由紀 (台東区蔵前小学校)

本ラウンドテーブルは、「教育空間におけるモノとメディア」をテーマとする科研費による共同研究(モノ科研)をもとに企画された。モノ科研は、道具に解消できないモノの多義性が教育・学習において有する意味を解明することを一つの課題としている。そして、そのようなモノの多義性が顕著に現れる場として現代美術の経験を想定し、東京都現代美術館における子どもたちの鑑賞活動とそれにもとづく制作について経験的な調査を行ってきた。本ラウンドテーブルでは、この調査の結果を報告するとともに、それを手がかりにして主テーマである「教育空間におけるモノとメディア」について理論的・哲学的に考察する提案を行う。続いて、上記の調査において多大な支援をいただいた東京都現代美術館の郷泰典氏と台東区立蔵前小学校の堀江美由紀氏をゲストに迎えて、報告と提案についてコメントをお願いする。以上をもとにして、フロアとともにモノの教育的意味について理解を深めるような議論を展開したい。

〔ラウンドテーブル4〕

【第2日目】16:00～18:00

経済学研究科棟 第4教室

例示／例外の政治学

企画者・提案者: 岡部美香 (大阪大学)・北詰裕子 (東京学芸大学)
高橋 舞 (帝京平成大学)・室井麗子 (岩手大学)

「わかりやすく」何かを教えたい、伝えたいと思う時、私たちは、一般に、例（実例、範例、例題）を示したり、何か別の言葉やものごとに置き換えて説明したりする。そのような例や置き換えられた言葉・ものごとは、偶然に選ばれたに過ぎない個物であるにもかかわらず、ある属性をもつすべてのものを表す普遍性をもつようになる。厳密には、そうした普遍性をもつ（と理解されるべきだ）と私たちが自ずと信じるものになる。そこには、真理および倫理を生成するいかなるメカニズムが働いているのか。他方で、ある例や置き換えられた言葉・ものごとが本来、表すべきものと必ずズレているという認識や、そのズレをあえて「表象不可能」ないしは「例外」として指し示す振る舞いにもまた、真理および倫理を生成するメカニズムが働いているのではないか。本ラウンドテーブルでは、教育や人間形成の場において例（例外）を示すことに働く力学について考察する。

〔ラウンドテーブル5〕

【第2日目】16:00～18:00

医学部1号館 S309

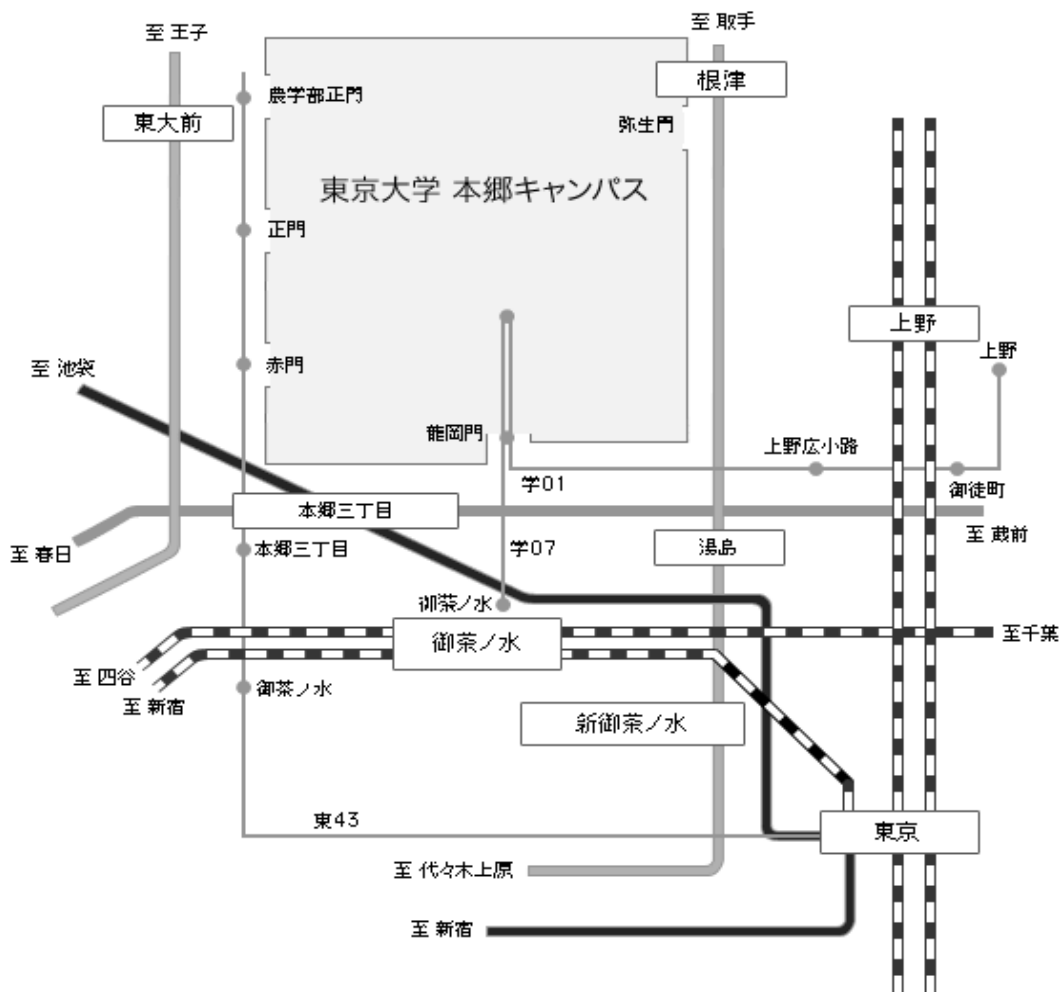
プラグマティズムは「教育」をどう問いなおしてきたか？ —現代プラグマティズムが切り拓く問いの地平を踏まえながら—

企画者・提案者：松下晴彦（名古屋大学）・生澤繁樹（名古屋大学）

本企画では、プラグマティズムが「教育」をどう問いなおしてきたのかということとをたどりなおし、「教育」がプラグマティズムによってどのように問いなおされていくのかということとを現代のプラグマティズムの新たな展開を踏まえて捉えてみたい。第一に、これまでのプラグマティズムが「教育」をどのように問いなおしてきたのかというその主題化の過程を、パース、ジェイムズ、デューイといった古典的なプラグマティズムの展開と20世紀後半のネオ・プラグマティズムの再評価の文脈のなかで捉えなおし把握する。第二に、ジェイムズやデューイよりもチャールズ・サンダース・パースの再解釈へと回帰する現代プラグマティズムの動向を踏まえつつ、またそれらの社会哲学やデモクラシー理論としての可能性を吟味しながら、プラグマティズムがどのように「教育」の問いを問題化していけるのかということとを考える。第三に、現代の教育の問題がプラグマティズムの方法によって実際にどのように問いなおされるかということとを具体的に検討し、これまでの教育哲学が中心的に問題化してきた問いのフレームそのものを疑いつつ、学校組織におけるリーダーシップ、マネジメント、アドミニストレーションなど教育哲学が不問に付してきた課題を浮びあがらせ、「教育」を問いなおす方法としてのプラグマティズムの今日的な重要性を明らかにする。

東京大学本郷キャンパスへの交通アクセス

【交通案内図】



- ・本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線） 最寄り駅 徒歩 6 分（赤門まで）
- ・本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） 最寄り駅 徒歩 6 分（赤門まで）

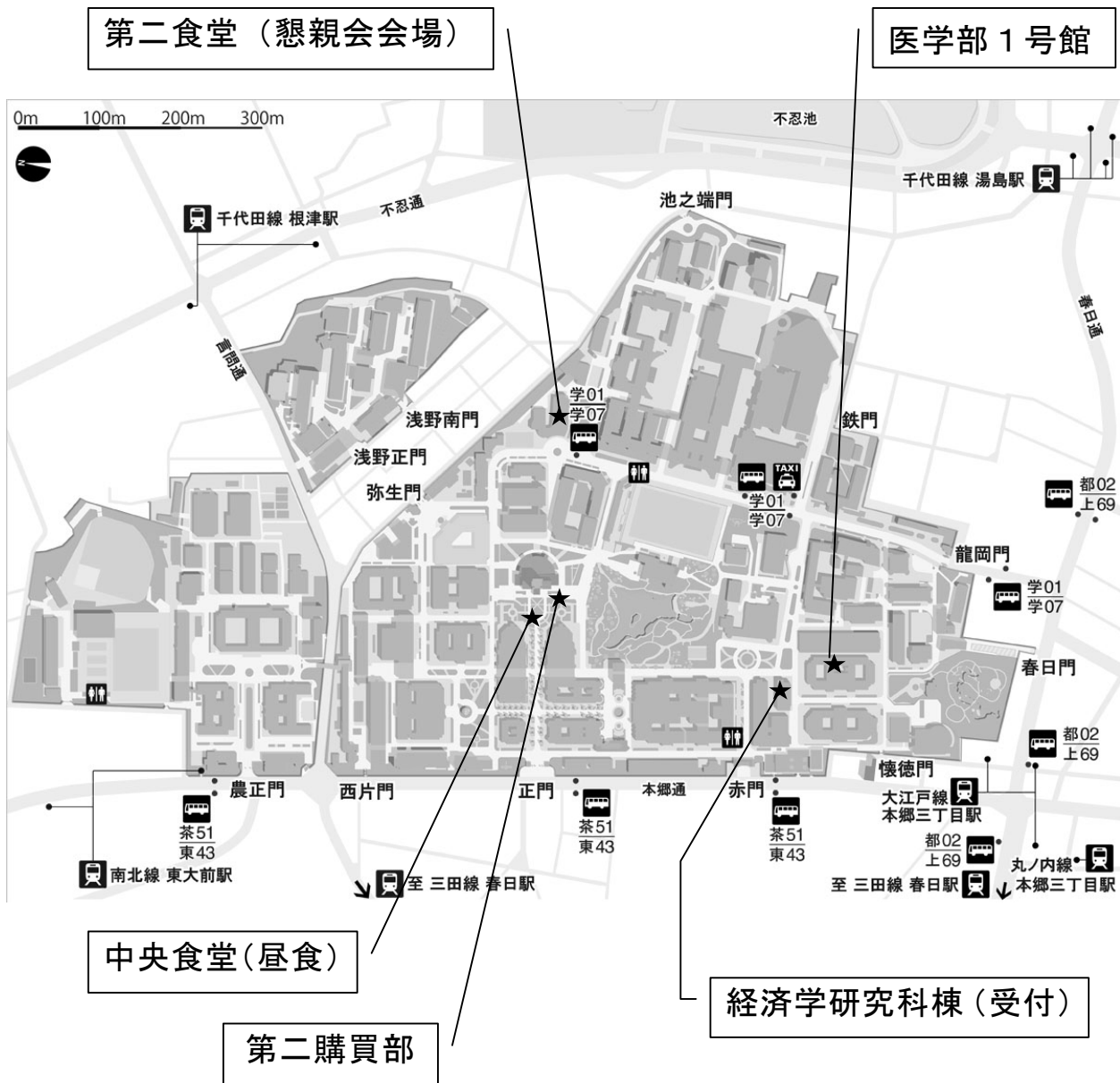
- ・御茶ノ水駅から
 - ・地下鉄利用 丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
 - ・都バス利用 茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行
|
東大（赤門前）下車
- ・御徒町駅から
 - ・学バス利用 学 07 東大構内行 — 東大（龍岡門）下車
 - ・都バス利用 都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行
|
本郷三丁目駅下車
- ・上野駅から
 - ・学バス利用 学 01 東大構内行 — 東大（龍岡門）下車

○大会会場の建物（「経済学研究科棟」及び「医学部1号館」）に最も近い入構口は、赤門です。ご来場の際は赤門のご利用をおすすめいたします。

○東大前駅（南北線）・根津駅（千代田線）・春日駅（三田線）から大会会場の建物まではかなりの距離があります。地下鉄をご利用の場合は、本郷三丁目駅（丸の内線・大江戸線）での下車をおすすめいたします。

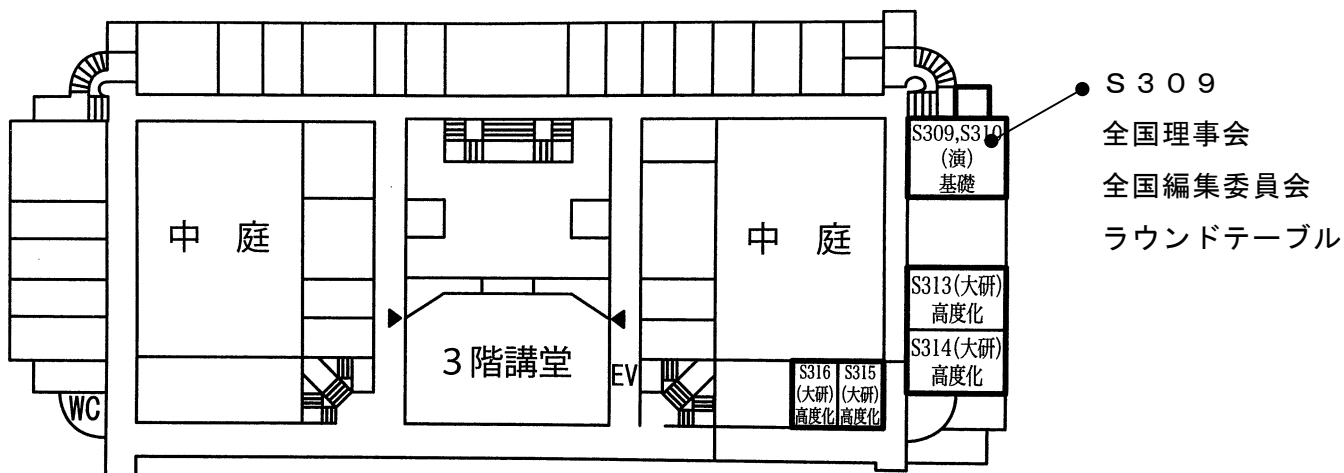
東京大学本郷キャンパス 大会会場

〈キャンパスマップ〉



- ・ コンビニ 赤門前：ナチュラルローソン
正門前：ファミリーマート、100円ローソン
本郷三丁目駅付近：ファミリーマート、セブンイレブン
- ・ 食堂 中央食堂（営業時間 11:00～14:00）
※このほかの食堂は営業していませんのでご注意ください。
- ・ 購買 第二購買部（営業時間 11:00～16:00）：食料品（お弁当含む）や飲料。

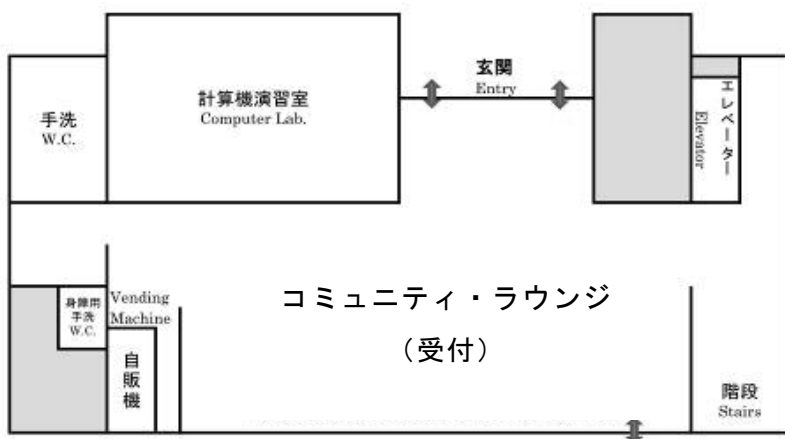
〈医学部1号館 3階〉



- S309
全国理事会
全国編集委員会
ラウンドテーブル

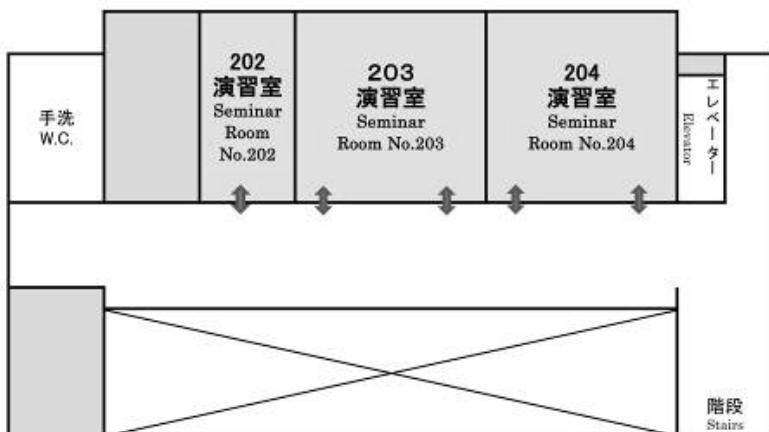
〈経済学研究科棟〉

1階



- ・コミュニティ・ラウンジ (飲食可)
大会受付
授乳室受付

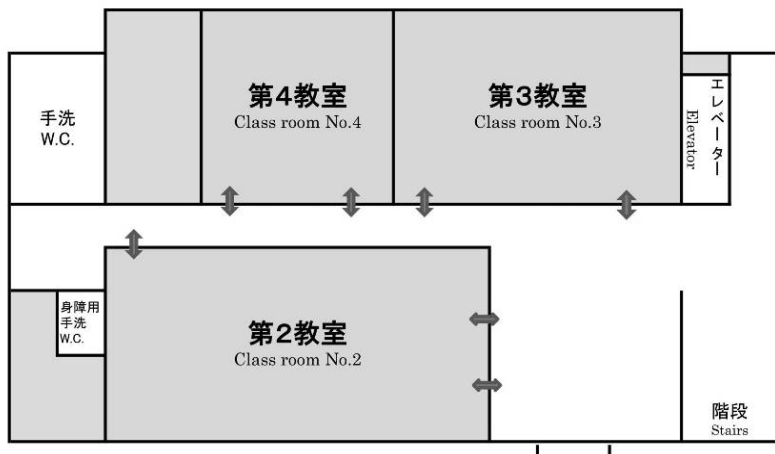
2階



- ・203 演習室
大会本部
- ・204 演習室
研究討議打ち合わせ
課題研究打ち合わせ

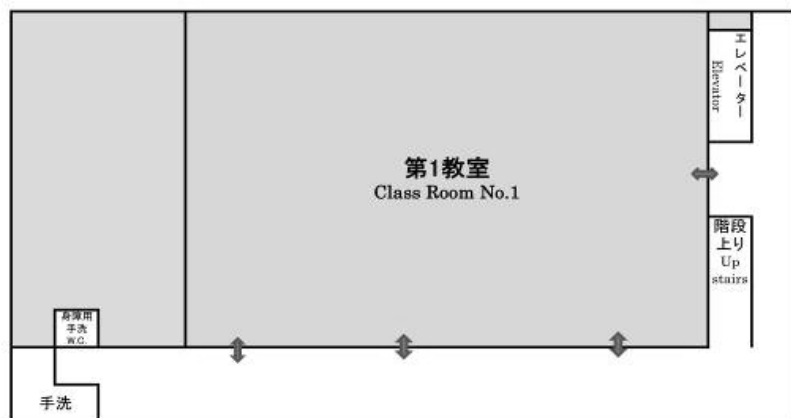
〈経済学研究科棟〉

3階



- ・ 第2教室
一般研究発表
ラウンドテーブル
- ・ 第3教室
一般研究発表
ラウンドテーブル
- ・ 第4教室
ラウンドテーブル

地階



- ・ 第1教室
研究討議
課題研究
総会
一般研究発表
ラウンドテーブル

〔教育哲学会第 59 回大会 準備委員会〕

委員長 田中智志（東京大学）

事務局長 小玉重夫（東京大学）

副事務局長 片山勝茂（東京大学）

院生委員統括 田中智輝（東京大学大学総合教育研究センター）

準備委員（東京大学・院生）

稲田祐貴（大会プログラム・要旨集録担当）

桑嶋晋平（懇親会担当）

村松 灯（会計担当）

李 舜志（会場設営担当）

安部高太朗・石神真悠子・梶川 萌

木下 慎・神戸和佳子・小林大介

澤井義雄・高田正哉・西本健吾

土屋 創・松橋俊輔・柳橋 晃

山口美和・渡邊優子